

## 「愛知発：地域スポーツのクロスオーバーモデル」シンポジウム報告

文部科学省委託事業 総合型地域スポーツを核とした活力ある地域づくり推進事業

(財)愛知県教育・スポーツ振興財団の主催により、文部科学省委託事業 総合型地域スポーツを核とした活力ある地域づくり推進事業「愛知発：地域スポーツのクロスオーバーモデル」のシンポジウムが2月15日(日)中日パレスにおいて開催されました。

「地域スポーツのクロスオーバーモデル」という新しい取り組みの提案と実際に取り組みられている実践内容の発表の後、シンポジウムのテーマディスカッションでは、クロスオーバーモデルの今後の可能性について、有識者より専門的な立場からさまざまなご発言がありました。

ここでは、「愛知発：地域スポーツのクロスオーバーモデル」についてご紹介します。

### ●愛知発：地域スポーツのクロスオーバーモデルとは（実践報告書より抜粋）

総合型クラブ相互の水平連携と地域から中央へと繋がる垂直連携とから成るスポーツ振興モデルを「地域スポーツのクロスオーバーモデル」と名付け、広域スポーツセンターが核となり、トップレベルチームを擁するスポーツクラブがもつ高い競技性を生かして、総合型クラブとの事業ネットワークを構築し、互いに有する資源を流通させながら事業の持続性を維持しつつ、広げていく仕組みの事です。

広域スポーツセンターにとっては、事業連携によるネットワークをタレント発掘の場として生かせることができ、またジュニア世代からトップまで一貫した競技者育成環境の基盤整備ができること、トップクラブにとっては、保有する資源を地域に生かして事業収入を得つつ競技の振興及びファンの拡大を図ることができること、総合型クラブにとっては、ブランディングされた外部資源を調達しつつクラブの事業を充実させ、クラブの求心力を高める仕組みとなるという利点が挙げられます。

### 具体的な実践内容

トップレベルクラブ：

NPO法人愛知スポーツ倶楽部「名古屋フラーテルホッケーチーム」

前身となる「表示灯ホッケーチーム」より日本リーグや全日本選手権等数々の優勝に輝き、日本代表チームに多数選手を派遣しているチーム

連携総合型クラブ：

NPOソシオ成岩スポーツクラブ

NPO法人木曾川文化・スポーツクラブ

NPO法人朝日丘スポーツクラブ

広域スポーツセンターが愛知スポーツ倶楽部と共同事業を企画し、3つの総合型クラブ内にジュニアホッケーチームを設置し、愛知スポーツ倶楽部より派遣された各クラブ担当指導者による週1回のトレーニングの実施と月1回フラーテルカップリーグ(3チームによるリーグ戦)を行っています。

(図1参照)

それにより、平成20年度に小学生ホッケー競技者が0名から50名以上に増えるなど、子どもたちにとって新しいスポーツ種目への参加環境が創出されたことや、実践しているクラブ間の交流ネットワークを創ることができたという成果が生み出されているとのこと。

その他、愛知県ゴルフ連盟と同様の事業スキームにより、5つの総合型クラブと連携したスナッグゴルフ普及事業にも取り組まれています。

今後に向けて、中学生チームの設置や指導者等、様々な課題を乗り越えていく必要があるとのことでしたが、総合型クラブとトップクラブの連携のモデルとして、新しい地域スポーツ振興の形として、他の地域や競技においても取り組んでいくことの可能性が十分あると思われます。この「クロスオーバーモデル」の今後の取り組みに注目したいところです。

(報告；財団法人日本体育協会生涯スポーツ推進部クラブ育成課 金谷)

図1 事業スキーム (実践報告書より抜粋)



関連リンク：愛知県広域スポーツセンター

<http://www.manabi.pref.aichi.jp/koiki/index.html>